（案）

令和２・３年期神奈川県青少年問題協議会　第４回企画調整部会　議事録

日時　令和３年８月 17 日（火）10 時 55 分～12 時
開催方法　Ｚｏｏｍによる会議

○　青少年課長

皆様、協議会に引き続きまして、御出席いただき、ありがとうございます。
それでは、本日の出欠についてご報告いたします。
本日は、企画調整部会委員　全員が御出席で、本部会の定足数を満たしております。
それでは、進行につきまして、長谷川部会長にお願いいたします。

○　長谷川部会長

皆さん、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

次第を御覧ください、今日は、企画調整部会では２つの議題がございます。１点は令和３年度神奈川県青少年育成活動推進者表彰について、２つめの議題は、かながわ青少年育成・支援指針の改定についてです。議題２にボリュームをあてて議論をできたらと思っています。第４回目の企画調整部会となります。よろしくお願いいたします。

それでは、まず議題１、令和３年度神奈川県青少年育成活動推進者表彰について、事務局から説明をお願いします。

○　調整グループリーダー

（資料１に基づき説明）

○　長谷川部会長

ありがとうございます。第２回企画調整部会で、表彰のことについては、多くの御意見をいただいていました。その中の意見を何点か、今回の中に取り入れていただいて、変更になったという御説明をいただきました。皆さんから、御質問、御意見をいただきたいと思います。

いかがでしょうか。特にございませんでしょうか。では、御異議がないようですので、事務局の案通りに進めていただくということにしたいと思います。ありがとうございます。

それでは、議題２に移ってまいりたいと思います。議題２、かながわ青少年育成・支援指針の改定についてです。先ほど、協議会のほうでもありましたが、ここからは、もう少し濃密な意見交換ができたらいいなと思っております。では、事務局から説明をお願いします。

○　企画グループリーダー

（資料２、参考資料１～３に基づき説明）

○　長谷川部会長

ありがとうございます。特に、参考資料１に基づいて、子ども・若者をめぐる現状の厳しさ等を共有したということになります。ここからは、御意見や御質問、あるいは意見交換をしてまいりたいと思います。御発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○　牧野会長

資料２の４ページ以降のところで、今後の改定に向けた考え方について、「育成」を外す

ということで、議論をしてきていて、支援ということになり、「子ども・若者支援指針」と名称を変えていったらどうかという御提案になっていると思います。育成を削除することは、私も基本的に賛成なのですが、目標とする社会について、改定の例で「はぐくむ」ということが多用されている印象があります。「育成」をとったのに、「はぐくむ」ということは、ある意味では矛盾する印象があると思います。ただ、やはり、育んでいくことは大事だと思いますので、表現を「子ども・若者の生きる力をはぐくむ」というと、外部の大人が彼らの力を育んでやるということで、育成になってしまいますが、「子ども・若者自身が生きる力を育むことを支援する」となれば、彼ら自身が自分の力をつけていくことを、周りが支えるという表現になるかと思いますので、そのあたり、もう少し表現の工夫をしたらどうかということが、まず印象としてあります。

そして、「育成」をとるということは、子ども・若者が主役であることや、大人が導いていけるような状態ではないという、子ども達のあり方も含めて、新しい社会になってくる中で、変な言い方ですが、大人の背中を見て生きれば大丈夫だとか、大人の言う通りに生きていれば大丈夫だ、という社会ではもうない。そういう意味では、彼らを支えながら、彼ら自身が自分の人生を作っていけるようになっていくということだと思いますので、４ページ以降に関わることだと思いますが、表現を少し検討されたらどうかという印象がありました。

○　長谷川部会長

ありがとうございます。牧野委員から、育成という言葉を取りやめて、支援するという概念に置き換えていくのだけれども、文章表現では、育成するということの意味合いが強いのではないかという御指摘でした。今、御意見を伺って、私もなるほどと思いました。この点について、何か御意見はありますでしょうか。

○　青木委員

私は、人間が古いのかもしれませんが、育成を外すことに抵抗感を少し感じています。というのは、周りの大人が、育むことはとても大切ではないかと思っています。もちろん、子ども・若者が自立し、生活していく、周りの大人が、そういう社会を作っていくのが大切なのではないかと思っています。私は、「はぐくむ」が色々なところに、ちりばめられているので、少しは救いがあったのかなと思っていたのですが、そういう考え方は間違っているのでしょうか。

○　長谷川部会長

ありがとうございます。他の委員の方は御意見いかがでしょうか。

とても、大きな点だと思います。牧野委員も、「育成」、「はぐくむ」の取扱い方を、「はぐくむことを支援する」といった、もう少し丁寧な表現をすることによって、子ども・若者を客体化しない、あくまでも、子ども・若者を主人公にしていこうではないかというお話だったかと思いますが、いかがでしょうか。

○　牧野委員

私も、本当であれば、子ども達を育むという観点は、先行世代である大人にとっては、大事だろうと思っているところがあります。今の社会のあり方は、育っていくという過程を省いて、完成品を求めるような感じを受ける気がします。それは、消費社会だといえばそうなのかもしれません。

私も学生や高校生と、ネットで話をすることがあり、彼らは、褒められているということがデフォルトなので、褒められても自己肯定感が高まらないと言います。ただ、それはなぜ

かというと、褒めるというのは、評価をされていると思っているからです。子どもの頃から、人格も性格も全部含めて、評価をされ続けていなければならないような感覚、褒められなくてはならないような感覚になっていて、それは大人の目から見て、完成品であることを求められている感じがあって、ピリピリしていると言います。

古い話をしても仕方ありませんが、私たちが子どもの頃は、製造業の社会では、子どもは未熟なので、育成して、育って大人になっていくのだから、その過程をゆっくり待ちましょうという観点があったと思うのですが、最初から完成品であることを求められてしまっている。そして、大人が育成する観点を忘れてしまい、待てなくなっているところがあると思います。そういった中で、子どもたちの居場所がなくなっているというように思います。そして、若者たちも、先ほどの自殺もそうですが、コロナ禍で職を失ったことや、小・中・高校生の自殺が統計を取り始めて最多になったという報告もあります。

こうしたことの中で、やはり、社会に自分がちゃんと位置付けられているとか、受け入れられているという感覚を持てるのか、評価ばかりされているということになって、育むことや、待つこと、ちゃんと受け入れていくということが、大事だろうと思います。では、社会は今、全体がそうなっているのかというと、そうではないことの中で、大人が何をできるのかと思うと、ある価値観を持ち、彼らを導いていく、ある方向に育てるということではなく、彼らが育つのを支援することや、育つことを待つということの方が大事なのかなという思いもあります。育成という、彼らを客体化して育てあげるのだ、という感じではなく、彼らが自分の力をつけていくことを、周りが支えていくようなことなのかなという思いもあって、先ほどの発言をしました。このあたり皆さんの受け止め方、感じ方も含めてどうかと思ったのですが、いかがでしょうか。

○　長谷川部会長

ありがとうございます。どうでしょうか。「はぐくむ」という言葉の内実のところを問題視してみようということだと思いますが、いかがでしょうか。

○　小泉委員

私も、名称の改定には賛成ですが、「はぐくむ」をとるということについては、皆さんの御意見を伺ってから判断したいというのが正直なところでした。子どもは、ある程度守られる立場であるという意味では、育むという視点を全く外すのは、どうなのだろうと感じています。５ページの改定の例のように、「子ども・若者の生きる力をはぐくむための支援」ですというような表現はいいかなと思います。

また、参考資料のアンケートの結果をみて、牧野委員がおっしゃたように、完成品を求めていることと近しいかなと感じたのですが、今の社会は情報が過多であるということを感じます。私たちの子ども時代も、友達とのトラブルはあったり、悩みもあったりしました。それを、そんなもんだと片づけるのではなく、そこはきちんと拾わなくてはならないと思うのですが、子どもの無邪気さや、がむしゃらさといったものがなかなか感じられないというかがなく、達観している子も多いのではと感じられるというか、例えば、満足しているか、していないかという問いに対し、「こんなものだろう」というように、割と達観して答えてしまっているところが多いのかなと思います。それでは、どうすればいいのかというと、なかなか良い案はないのですが、もう少し、がむしゃらにやって、失敗してもいい、無邪気に楽しんでもいいという、そういう環境が少なくなっているのかなということから、アンケートの回答にも影響してくるのかなと感じました。

○　**長谷川部会長**

　ありがとうございます。とても大切なところなので、「はぐくむ」というところについて、他の委員のお考えを伺いたいのですが、いかがですか。

○　**尾崎委員**

　今回、育成を外して、支援ということに、主語を社会にして、子ども・若者を支援するという整理をしていると思いますが、参考資料１の 13 ページ、図表 25 の県民ニーズ調査について、「今後 10 年くらいの間に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている」と考えている人が、たったの 13%しかいないという結果となっています。誰が、責任を持つのかを明確にするという意味で、社会が主語であり、子ども・若者の育ち、育みを支援するという考え方が、より明確になっていく必要があるのではないかと、この調査結果を見て感じました。これまで、皆さんが発言されている通り、育むということも含めて、支援なのだという視点が、指針の最初のところにしっかり、語られるべきなのかなと感じました。

○　**長谷川部会長**

　ありがとうございます。尾崎委員もおっしゃいましたが、私も、この図表 25 を見たときに大変、驚きました。必要性を感じているのだけれども、そういう社会は来ないよという、このギャップをどうやって埋めていくのかが、とても大事な課題なのだろうと思いました。

　もう少し、今のテーマで議論を進めたいと思います。いかがでしょうか。

○　**西野委員**

　図表 25 について質問です。とても気になる図表ですが、県民ニーズ調査と書かれていますが、この資料はどういう扱いのものでしょうか。県民ニーズ調査というのは、今まで載っているデータと意味合いが違い、青少年課が調査したものなのか、まず、出典を教えていただけますか。これは、ある意味、重要なデータに見えます。

○　**事務局**

　出典を記載せずに、申し訳ありませんでした。県民ニーズ調査は、県が実施している調査です。防災や環境、子育てなどの生活全般について、県民のニーズを把握する調査です。

○　**西野委員**

　この調査のサンプル数や、対象が分かると、この図表をもとに、今後、色々な議論ができるのかなと思いました。後日でいいので、調査方法や、サンプル数、対象、年代などがわかる資料を提供いただきたい。部会長のおっしゃった通り、図表 25 の数字は、どれも驚くものですので、資料を提供いただき、ここから議論していけるのではないかと思いました。

　「今後 10 年くらいの間に、地域の大人が青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている」とは思っていないと、何歳くらいの人達がそう答えているのか。「若者のひきこもりなど、青少年が自分自身の価値や存在感を実感しにくい世の中になっている」が７割、「今後 10 年くらいの間に、不登校・ひきこもりなどの子ども・若者の支援を行うフリースクールやフリースペース、相談機関などが整っている」が 25%です。政策的に意見をだすには、使えそうなデータなので、出典、内容を知りたいと思いました。

　牧野委員と青木委員がおっしゃったことは、悩ましいことだと思います。はぐくむ機会やはぐくむための支援など、「はぐくむ」という文字は入ってもいいような気がしますが、育成を外した意味というのは、捨てがたいとも思っています。だから、かろうじて、はぐくむ

ための支援とか、はぐくむ力や、はぐくむ機会を支援するというようにしていくことで、全て、はぐくむを外す訳ではないけれども、育成と読み取られ、一方的に上から下にという感じではないように見える表現を検討していくのだと思います。

○　長谷川部会長

この話題でずっと議論をできると思うところですが、他に御意見はありますでしょうか。

○　蟇田委員

私も皆さんと同じく、悩ましいところだと感じていますが、参考資料１の自己肯定感の図表１，２と、図表 25 が気になっています。自己肯定感は、よく高いとか低いとか言われますが、私たちが支援している子ども・若者は、自己肯定感という言葉を言われることが嫌だというケースがとても多いです。若者たちは、僕は自己否定なんでと言い切るところがあります。自分の事を否定したっていいじゃない、これから頑張るんだ、という意味があると言われ、大人が見方を変えていくことが大事だなと痛感しています。

そして、図表 25 の県民ニーズ調査については、興味深いと思っています。若者がひきこもっていることに関しては、生きにくい世の中になっている、マイノリティだと７割の方が思っているのに、10 年後は地域の大人が青少年の成長に責任を持つようになっているということに関しては、低いということは、やはり、自分事として考えることができず、他人事になっている。社会が擁護しなくてはならない子ども・若者が増えている割には、意識が低いことを。今後どのように意識をかえていくのか、課題の一つだと思います。

さて、この改定例の「はぐくむ」という文字をどうするかについてですが、確かに、育成という言葉は、上からで、私も好きではないなと思っていましたが、「はぐくむ」こととなると、大人も一緒に成長していくという意味合いが入っていくのではないかと思います。そういった意味合いが入っていた方が、県民の意識を含めて、他人事から自分事になる、大人も一緒にはぐくむ、成長していくということが必要ではないかと感じているので、何かはまるような言葉があれば、是非教えていただきたいと思いました。

○　長谷川部会長

ありがとうございます。時間が過ぎていますが、御発言のない委員の方について是非お願いします。

○　藤井委員

「はぐくむ」や「育成」は、教育の観点から見ると、すごく大切なことだと思います。一方で、社会全体で支えていくという観点も、大切ではないかと考えています。支援という言葉は、何を支援するのかということを、明確に示したほうがいいのではないかと考えています。この場合ですと、自己形成を支援することかと思いますので、そうした意図が伝わるような表現を選んでいくことが重要なのかなと考えています。「はぐくむ」ということも、ぼんやりしてしまって、色々な意図を読み込んでしまうのではないかと思います。支援という言葉を使う際には、何を支援するのかというところを明確に示すような、改定の方向に向けて進んでいくといいのではないかと考えています。これは一点目です。

もう一点、資料２の６ページの社会環境の整備について、社会全体が子ども・若者の育つ環境に関心を持ち、という文章で、子ども・若者の育つ環境という表現があるのですが、環境は一様ではないと思いますので、多様な環境というものが、イメージされるような表現であると望ましいのではないかと考えております。

○　**長谷川部会長**

ありがとうございます。今新たに、環境という言葉を、厳密に使うべきだという意見ですね。もう少し続けましょうか。いかがでしょうか。

○　**福山委員**

県民ニーズ調査の若者のひきこもりについて感じたのが、おそらく自分の友人関係や家族だけではなく、ネットを通じて、全国津々浦々、色々なところで、生活をしている同世代の人達が見られるようになっているので、自分が頑張れたことや、人からすごいねと言われたことでも、他の人はもっと、すごいことをしているのになとか、そういうことを無自覚に思ってしまっていて、そもそも、価値観や存在感を自覚しにくいこと自体を、子ども・若者はそもそも、それが自覚できていないのではないかなと思っています。

蟇田委員もおっしゃっていましたが、「青少年をめぐる昨今の問題は親や地域住民などの大人の責任が大きい」と答える人は過半数なのに対して、「今後 10 年くらいの間に地域の大人が青少年の健やかな成長に責任を持つようになる」と考える人は 13%と、自分たちが地域の大人に該当していることを自覚という言葉がいいかわかりませんが、目標を立てて実行していくのは、子どもではなく、大人の方だと思うので、「はぐくむ」など、他の言葉に置き換えるにしても、そういった意味合いを持たせるのはいいことではないかと思いました。

○　**長谷川部会長**

ありがとうございました。もう時間になってしましましたが、非常に本質的な事柄についての意見交換ができたと思います。

私の見解でしかありませんが、個人的には、育成をやめて「はぐくむ」という言葉を使用するにしても、報告書の冒頭の部分で、そのことを丁寧に書き込むなど、そういうことでの共通理解のもとで、報告書を読んでいただくということをしないと、なかなか展開がしにくいのではないかという気がしています。

事務局に相談しないとならないことですが、今日は「育成」と「はぐくむ」をめぐって、あるいは、社会を自分ごととしてではなく、連帯や共生の主役になっていく社会が。しかし、図表 25 をみると、そこからは外れますよという宣言をしているわけです。それでは、この報告書をまとめたとしても、意味がなくなってしまう。どうやって、ある種インパクトを与えられるかということも、書き込まなくてはならないと思います。今日のこの Zoom の時間だけではなく、まだまだ、お話が足らないこともあると思いますので、御意見を事務局の方にお出しいただく。その中で、スケジュール的には、コロナ禍の中でゆったりとした形で進められるようになりましたので、その時間を活用しながら、議論を深めていきたい、あるいは、そうした論点を提案させていただいて、議論を重ねていきたいと思います。事務局に相談なしで言っていますけれども、そのことの御示唆をいただければと思います。

熱心な御意見、御討議をいただき、ありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。

○　**青少年課長**

皆様、活発な御議論をいただきありがとうございました。今、部会長からお話がありましたように、改定スケジュールを、ちょうど１年遅らせるということで、十分に議論する時間がございます。次回、第５回企画調整部会は、神奈川青少年育成推進者表彰の受賞者の決定ということで、書面で開催を予定しておりますが、例えばそういった機会を通じて、指針の

改定についても、皆さんから御意見をいただいて、引き続き、時間をかけて議論ができると思います。今日の議論を踏まえて、事務局でも少し考えて、御提案をしながら、御意見をいただくという形で議論を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次回の書面開催は、10 月に予定しております。皆様、お忙しい中とは思いますけれども、御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

○　長谷川部会長

ありがとうございます。今、課長からもお話がありましたので、機会がありましたら、議論ができる場を設けていただけたらと、部会長としても考えております。それでは、第４回企画調整部会を閉会します。皆様どうもありがとうございました。お疲れ様でした。

以上